かることが目的であります。日本の「ロータリーの友」はＲＩ理事会が指定した公式地域雑誌であり、「ロータリーの友」は1980年７月から公式地域雑誌となりました。地域雑誌の定義として主なものを上げますと①その雑誌は２地区もしくは２カ国以上の地域を対象に発行されるもの②編集内容は少くとも50％はロータリーと関連のある記事でなければならない③１年間に４回以上発行されなければならないなどとなっております。

「友」の歴史は1953年創刊当初は横組みでスタートしたが、その後、歌壇など横組みでは具合の悪い記事がはじまり、これらを縦組みに掲載、縦組み、横組みが混ざった雑誌となった。1972年１月から従来の形式を一変し縦組みと横組みに分け、現在に至っている。

（表紙）は年度初めの７月号は、その年度の新ＲＩ会長の写真を使用することが公式雑誌としての条件とされ、８～６月号は常任委員会の会議の上、決定され今年度は、昨年度に引き続き「シリーズ・日本の世界遺産と風土」を紹介しております。

（横組み）はロータリー用語早わかり、ＲＩ会長メッセージ、ロータリーの特別月間特集記事ガバナーのページやガバナー座談会、ロータリアン誌からの転職記事、今月のロータリー等からなっております。

（縦組み）は投稿を中心とした欄から構成されており、Speech・Report、友愛の広場、談話室、卓話の泉、私の好きなことば、健康ひとくちメモ、ロータリー俳壇、ロータリー歌壇、ロータリー柳壇等があります。が、投稿には字数、句数等に制約がありますので投稿される方は御注意下さい。又、編集の過程につきましては４月号であれば２月から準備にかかるという事なので、今投稿すれば２ケ月後に載るという事になります。

（ロータリー友の名前の由来）ですが「主婦の友」からヒントを得たとされておるようです。

（友の定価）は1953年創刊当初は１部50円その後100円……200円となり現在に至っている。

（友の広告料）は表紙２（オフセット４色）１ページ600,000円、本文オフセット４色１ページ530,000円、本文記事中１ページ240,000円、½ページ140,000円となっています。（１ケ月の広告料収入約500万円）

そして世界各国にロータリー誌がありまして、ＲＩ地域雑誌27誌、内訳としまして非公式地域雑誌４誌（エジプト、フランス、ドイツ、スイス）とあり、月刊、隔月刊、季刊、年10回とかで発行されております。日本の「友」は１ケ月13万～14万部発行されており、その辺が「読れざるベストセラー」といわれるのかもしれません。

又、４月号には〝「友」を読めば新しい世界がひらく〟ガバナーの座談会や、ロータリーの友に対するアンケート調査の結果、「友」に対するＱ＆Ａの記事が載っておりますのでごらんいただき

たいと思います。

ロータリアンには３つの義務が有ります。例会出席と会費の支払い義務、そして雑誌の購読義務であります。１冊200円ですが、年会費として一括処理されていますから、自分でお金を出しているという認識がうすいのではないか？　「友」を読むのもロータリアンの義務なのであります!!

新入会員の皆様、ロータリーの事を知るには「友」が一番手っ取り早いと思います。ぜひよくお読みいただきたいと思います。そして私も含めて会員の「友」に対する意識の喚起といたしまして雑誌月間の私の卓話（クラブ雑誌委員長用「ロータリーの友」資料より抜粋）をおわります。

糸魚川ＲＣ創立40周年記念式典に出席して：　山上　茂夫

去る４月１日（日）ホテル糸魚川で開催された式典に参加する機会を得ましたのでご報告致します。

あいにく朝から雪が降り寒い中を出かけましたが、当地に着く頃は晴れて青空がポッカリと雲間にあいて、暖かく恵まれた日和となりました。

クッキリと浮かぶ立山連峰が絵に描いたように白色で美しく感動いたしました。駅前の迎えのバスに乗り込むとご年輩の貫禄たっぷりの方に、どうぞ！遠いところを・・・と席を用意されました。後で判った事ですが大会実行委員長の木島様で、その他次々とバスに乗り込まれたロータリアンは地元の方ばかりでした。会場までの道中、火力発電所がまもなく事業開始するとのお話などご案内を頂きました。同県内でも巻や柏崎の原子力発電とは違い自然を生かしたエネルギー指向を感じました。

式典は記念事業の、男女が天を仰いで向き合ったモニュメントの目録贈呈、ご来賓のご挨拶の後、表彰を行い終了しました。

二部はモニュメントの製作者、彫刻家名古屋芸大講師、岡本勝博先生の［私の芸術論］講演がありました。

※私の教育現場では信じられない事があります。若者たちが地震災害などすぐそばで起きていても全く無関心、ボランティアは遠くから駆けつけた人達なんです。未来に夢を感じない無関心な若者たちです。また１年に１回芸術祭がありますが、芸術祭とは名ばかり、作品の出品は少なく、学生たちはパフォーマンスや楽しいことに溺れ、騒いで３日も飲み明かすのです。

芸術家として作品は外から見るものでなく自分の内面を表していくもので、見る人に感動が伝わって行くものだと思います。

今、西洋的なものをよしとし、日本古来の芸術、文化を軽視する風潮、土壌があります。自由化で他国文化を取り入れるのは、やむを得ない事と思いますが、この若者たちの心の荒廃を見ると、後50年たって日本という国があるでしょうか？私はこの様な若者たちを育てた私たち大人に責任があり、今これを皆で勇気を以て教育しなければ大変な事になると心配をしています。日本古来の伝統やよきものを残して行く事が必要です。子供の言いなりでなく、親がしっかりと先を見据えて生